

科学研究費助成事業（科研費）特設分野と、
科学技術振興機構（JST）戦略的創造研究推進事業への
申請・採択状況について

日本数学会・教育研究資金問題検討委員会

日本数学会・教育研究資金問題検討委員会では、平素より科研費を中心として数学会会員の皆様に申請状況、最近の動向、今後の見通しなどの情報を提供しております。

今年度から科研費に設けられた基盤研究（B・C）特設分野の採択状況と、新しく始まったJSTの戦略的創造研究推進事業（CRST・さきがけ）「社会における支配原理・法則が明確でない諸現象を数学的に記述・解明するモデルの構築」における応募・採択状況をこの場を借りて簡単にご紹介をさせていただきます。申請を考えている方々だけでなく、数学分野が他分野と共同する研究プロジェクトに対して、積極的な支援の体制が構築されつつあるという情報を共有できればと願う次第です。

まず、基盤研究（B・C）特設分野研究「連携探索型数理科学」ですが、基盤研究（B）13課題、基盤研究（C）8課題が採択されています。詳細については、日本学術振興会のサイト「平成26年度科研費（補助金分・基金分）の配分について」

http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/1352401.htm のページから pdf ファイルの資料がダウンロードできます。97 ページの長い資料ですが、その 17 ページ目に採択された研究課題名と研究代表者が掲載されています。

なお、この分野は3年間継続されます。27年度の申請は終了していますが、今年（平成28年度分）が申請の最終年度になりますので、ご関心のある方は動向にご注意ください。

次にJSTのCRSTと「さきがけ」の採択結果については、それぞれ次のサイトの pdf ファイルがダウンロードできます。

<http://www.jst.go.jp/kisoken/crest/news/2014/140926crest.pdf>

<http://www.jst.go.jp/kisoken/presto/news/2014/140926/140926presto.pdf>

CRSTの7課題と、比較的若手の研究者が単独で行うさきがけは9課題が採択されています。詳細についてはそれぞれ研究総括の坪井俊（東京大学）教授と國府寛司（京都大学）教授の総評を読んで頂くことをお願いしますが、前者は57件の応募、後者は111件の応募がありました。高倍率の狭き門と捉えるよりは、幅広い分野からこれだけの応募があったということはその関心の高さを表しており、数学全体としては大変喜ばしい限りです。次年度もまだ募集が続きますので多数の方の申請（あるいは再申請）を期待したいものです。